

阿辻先生 おすすめ本

『文字の文化史』

藤枝 晃／著 岩波書店(1972)

3500 年前に遡る甲骨文・金文。漢字の誕生は、神を祀り神託をきく儀式と深く関わっていた。聖なる文字はどのような歴史を経て万人のものとなったか。写本の素材や形態の変遷、字体の変化などを興味深く語る。図版 102 枚。

『科学 中国の試験地獄』

宮崎 市定／著 中央公論社(1979)

かつて中国に存在した官吏登用試験「科挙」の緻密な制度、時代背景や導入の経緯を解説する。同時に、様々な挿話から科挙に関係した人々の悲しみと喜びも描き、試験地獄を生み出す社会の本質を解き明かす。

『日本語の世界 3 — 中国の漢字』

貝塚 茂樹／編 小川 環樹／編 中央公論社(1981)

「中国の漢字」と題し、中国における漢字のあり方について様々な角度から描き出す一冊。漢字の起源や構成、字書や楷書、さらに現代中国語の形成から見る漢字の変化など、多彩な論考を収録。

『古代殷帝国』

貝塚 茂樹／編 みすず書房(1967)

伝説上の存在であり実在しないと思われていた、中国古代の殷王朝。司馬遷の『史記』の叙述を真実と信じた王国維・羅振玉をはじめとする学者たちによる、殷帝国の考古学的発見をめぐる物語。

『漢字再入門 楽しく学ぶために』

阿辻 哲次／著 中央公論新社(2013)

漢字の成り立ち・読み方の歴史・部首の不思議や音訓読みなど、漢字の様々な側面について漢字学の第一人者である著者が解説する一冊。

※すべて京都府立図書館で所蔵しています。